

南条殿御返事

弘安三年一二月一五日 五九歳

しらせごめ 摩牙二石・並びに鶉鷄いもち一駄故五郎殿百ケ日等云云。法華經の第七に云はく「川流江河の諸水の中に、海こ為れ第一なるが如く、此の法華經も亦復またまた是くの如し」等云云。此の經文は法華經をば大海に譬へられて候。大海と申すはふかき事八万四千由旬ゆじゆん、広きこと又かくのごとし。此の大海の中にはなにになにのすみ候と申し候へば、阿修羅王

字百千万の字あつまで法華經とならせ給ひて候へば、大海に譬へられて候。又大海のいつてい一滌は江河のしずく滌すこと小しくは同じといへども、其の義はるかにかわれり。江河の一滌は但一水なり、一雨なり。大海の一滌は四天下の水あつまで一滌をつくれり。一河の一滌は一の金のごとし、大海の一滌は如意宝珠によいほうじゆのごとし。一河の一滌は一のあぢわい、大海の一滌は五味のあぢわい、江河の一滌は一つの薬なり。大海の一滌は万種の一丸のごとし。南無阿弥陀仏は一河の一滌、南無妙法蓮華經は大海の一滌。阿弥陀經は小河の一滌てい、法華經の一字は大海の一てい。故五郎殿の十六年が間の罪は江河の一てい、須臾しゆゆの間の南無妙法蓮華經は大海の一てい等云云。夫それおもんみ以れば花はつぼみさいてこのみ菓なる。をやは死にて子になわる。これ次第なり。譬へば